

先端まちづくり学校の取り組み

◆開校のねらい

「自分たちでルールを決めて、自分たちで街を創ろう」とする街づくりの大きな流れが、いま各地で、起こっています。街の経済を支える新たな産業を起し、快適な街の空間を創造し、歴史や文化を生かしていくことは、やりがいのある仕事です。特に、地方分権や都市再生を担う専門家の感性・知識・スキルのレベルアップの必要性が益々高まっています。先端まちづくり学校では、このような創造的観点から地方分権や都市再生を担う人材を育成するべく、東京大学の蓄積を生かし、さらに学外の専門家の協力を得て、民間企業、NPO、自治体等で働く社会人を対象に、多難な時代に力を発揮するまちづくり専門家を輩出しようというねらいで発足させたものです。

◆実施機関

「先端まちづくり研究ラボ」は、東京大学先端科学技術研究センターが科学技術振興調整費・戦略的研究拠点育成部門で採択された「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」の研究組織の一つとして位置づけられています。「先端まちづくり研究ラボ」では、東京大学先端科学技術研究センター（都市環境システム分野ほか）を中核機関に、東京大学工学系研究科都市工学専攻、経済学研究科、法学研究科、農学研究科などの本学関係研究者や他機関関係者の協力、民間研究機関、NPO、自治体、政府関係機関などの協力で、研究開発を進めています。また、外部機関と連携した事業として、東京大学・先端まちづくり学校を運営しています。

◆特徴

- 学際的な領域をカバーしたプログラムの提供**
学内外のネットワークを活用して、都市工学、経済学、法学、農学、経営学、NPO 論など、多岐の分野をカバーした研修プログラムを提供
- 産官学の協同によるアカデミックかつ実践的な技術・知識の習得**
大学、民間企業、NPO、自治体、政府系機関などの協力を得て、アカデミックで、かつ実践的な講義や研修を展開
- グローバル＆ローカルな視点の獲得**
地球規模の問題を広く見通しつつ、地域の問題に取り組めるような技術・知識を学び、まちづくりに必要な多様な感性の獲得

◆東京大学先端まちづくり学校のあゆみ

※各期の内容等に合わせて受講者の定員を様々に設定しております。

	テーマ	日時	受講者
第1期	「都市マネジメント」 「分権・参加型まちづくり」	2001年3月1～3日	285名
第2期	「先端産業とまちづくり」	2002年8月2日～4日	97名
第3期	「アーバン・デザイン・マネジメント」	2002年11月30日～12月1日	127名
第4期	「まちづくりにおける多様な意向の調整と意思決定」	2003年2月1日～2日	96名
シンポジウム	「まちづくりを如何に学ぶか」	2003年3月12日	301名
第5期	まちづくりゼミナール「都市マネジメント」	2003年10月18日・11月8日・ 12月13日・2004年1月24日	42名
第6期	まちづくりゼミナール 「コラボレーションによる新しいまちづくり」	2003年10月18日・11月8日・ 12月13日・2004年1月24日	27名
第7期	「バリアフリーとまちづくり」 ※福島研究室と共催	2003年12月20日～21日	49名
第8期 シンポジウム	「条例によるまちづくり」	2004年2月23日	398名
報告会 & シンポジウム	都市再生のための地域力整備に関する調査報告会 &シンポジウム ～都市再生のための地域力とは？～	2004年8月5日	72名
第9期	「まちづくりと新たな財源」	2004年12月18日～19日	69名
第10期	「中心市街地の活性化を考える」	2005年3月19日	85名
合計			1648名

先端まちづくり学校 講義の様子

●東京大学先端まちづくり学校では、多くの講師陣・受講生とともに、様々な研究・学習活動を実施してきました。

講義の様子



●第4期講師のイネス先生



●第4期講師の山中先生



●講義中 質疑の様子



●第7期共催の福島先生



●第5期・6期のまちづくりゼミナールの最後の講義 金沢市長



●ゼミナールでは、円座形式で、まちづくりに関する課題を検討し、また解決方策などを討議しました。

ワークショップ風景



●第1期・4期・5期(ゼミ)・6期(ゼミ)・7期では、ワークショップ形式を取り入れ、それぞれの思いや課題を共有しながら、まちづくりへの方策を検討しました。

まち歩きの結果マップ



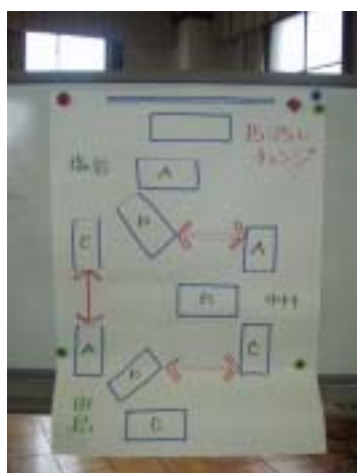
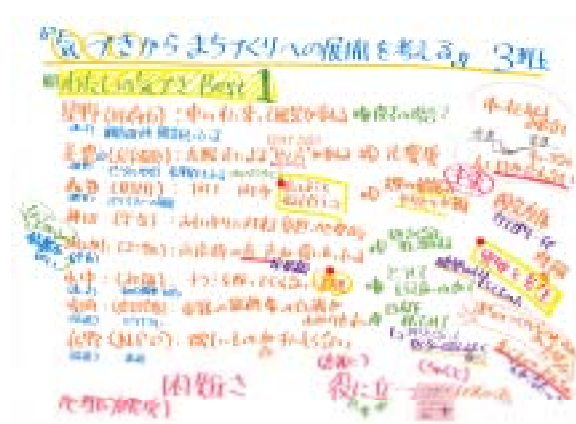
疑似体験をしながらのまち歩き



●第7期の様子
車椅子体験(介助あり、自走式)・全盲体験・弱視体験・難聴体験の各コースに別れ、障害のある方にアドバイスをいただきながら、それぞれ、まち中の「気づき」を発見しました。



検討時に利用された模造紙の描きこみと作業風景



アンケート集計結果の概要（回収率平均 79.6%）

◆受講生の特性（男女比）

男性	82.4%
女性	15.7%

◆参加者の分野構成

参加者の分野別構成	(%)
NPO	2.1
大学関係	4.7
金融等	1.5
シンクタンク・コンサルタント等	15.0
建築土木関係	6.7
その他の企業	9.4
公団	3.7
自治体	42.8
商工会	1.4
社団・財団	5.0
その他	5.0
不明	1.5



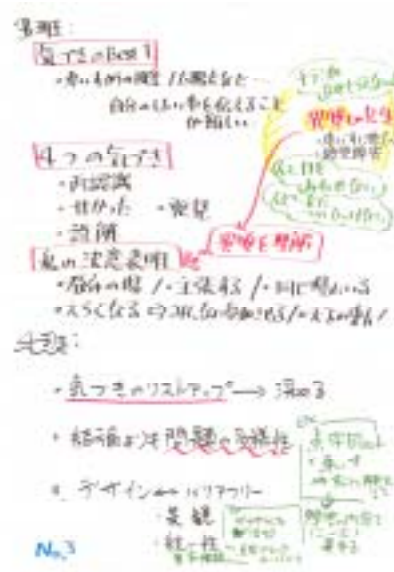
●学外の施設でのシンポジウムの様子



●グループに分かれてのWS作業



●講義中 質疑の様子



◆東京大学先端まちづくり学校への参加のきっかけ（複数回答）

きっかけ(複数回)	人	%
1. 現在の職業に役立つ知識をえるため	622	82.3
2. 新たな自分の可能性を開拓するため	272	36.0
3. 人脈(受講者間)を広げるため	137	18.1
4. 講師と知り合いいたため	58	7.7
5. とにかく大学で学問に触れたかった	58	7.7
6. 会社や上司からの命令で	44	5.8
7. 地域社会での活動に活かすため	172	22.8
8. 転職に向けて	20	2.6
9. その他	26	3.4
無回答	2	0.3

◆東京大学先端まちづくり学校に参加した総合評価

	第2期		第3期		第4期		第5期		第6期		第7期		第9期		第10期	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1. 予想以上の成果が得られ、大変満足した	17	19.4	10	9.1	10	12.4	6	24.0	6	35.3	7	21.2	10	15.2	6	7.8
2. 期待通りの成果が得られ満足した	23	26.1	30	27.3	48	49.5	10	40.0	7	41.2	14	42.2	25	37.9	44	56.5
3. 内容と期待とは少し違っていたが概ね満足した	23	26.1	27	24.5	11	11.3	8	32.0	4	23.5	8	24.2	21	31.8	14	17.5
4. やや期待はずれであった	1	1.1	4	3.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	6.1	3	4.5	1	1.4
5. 非常に期待はずれであった	0	0.0	1	0.9	2	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6. その他	0	0.0	38	34.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.0	1	1.5	0	0.0
無回答	24	27.3	0	0.0	24	24.7	1	4.0	1	5.9	1	3.0	6	9.1	13	16.8
回答者数計	88	100	110	100	97	100	25	100	17	100	33	100	66	100	78	100

人間と社会に開かれた 先端まちづくり研究ラボの研究と活動

都市環境システム分野の研究領域

1. 国土・地域計画に関する研究

土地利用計画や地域の産業振興など、国土計画・地域計画に関して様々な観点から調査・研究を行う。特に環境保全に向けたグローバル化が進む中での地域振興に向けた計画課題、市町村合併が進む中での広域計画などに焦点を当てた研究が行われている。

2. 発展途上都市の計画論

アジアを始めとする発展途上国の都市問題を実証的な方法により研究し、その計画課題や計画制度のあり方について研究している。東南アジアなどをフィールドに、都市化過程の制御、整備方法、環境保全、成長管理、参加型開発手法等について、現地大学、NGO、国際機関などと連携して調査研究を行っている。

3. 都市開発・まちづくりの推進方策に関する研究

低成長期に入り都市財政が逼迫し民間による都市開発が困難になるなかで、まちづくりや都市開発の実現方策に関する研究を行っている。最近では、密集市街地整備の推進方策やアメリカの TIF・BID 制度の実情などに関する研究を行っている。

4. 環境共生都市の実現方策に関する研究

都市人口及び必要とされる市街地面積の絶対的縮小期に入らる中で、経済的・社会的繁栄を享受しつつ環境と共生できる都市の実現方策について研究している。最近では、情報通信技術の進展に伴うテレワーク等の雇用形態の推進や都市活動に伴うエネルギー消費・温暖化ガスの排出削減方策、都市の成長管理の

あり方などに関する研究を進めている。

教授 大西 隆



◆1980年7月
東京大学大学院
工学系研究科
博士課程修了

◆1982年2月
長岡技術科学大学助教授

◆1984年1月
アジア工科大学助教授

◆1988年4月
東京大学工学部都市工学科助教授

◆1995年4月
東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻教授

◆1998年4月
東京大学先端科学技術研究センター教授

研究メンバー

教授：大西 隆

◆研究テーマ：国土計画・地域計画、テレワーク論、都市開発論
◆主な著書：「逆都市化時代ー人口減少期のまちづくり」著：学芸出版社（2004）、
「新しい自治体の設計2」編著、有斐閣（2003）、
「分権改革の新展開に向けて」（共著）、日本評論社（2002）等

特任教授：ピーター・J・マーコトゥリオ

◆研究テーマ：環境共生都市論、アジア都市ネットワーク論
◆主な著書：“Globalization and the Sustainability of Cities in the Asia Pacific Region” Lo, Fu-Chen (Edt) / Marcotullio, Peter (Edt) : United Nations Univ Published 2001/12

講師：中島 典之

◆研究テーマ：都市水環境保全、沿岸域底泥汚染と生態毒性、都市水循環における有害物質動態解析、雨天時汚濁解析等

特任助手：野澤 千絵

◆研究テーマ：市民のためのまちづくり学習・地区まちづくり・人口減少社会における大規模敷地の土地利用転換方策、建築・開発行為に関わる協議システム、防災・復興まちづくり等

助手：菅 正史

◆研究テーマ：人口減少下における都市圏構造の変容と持続可能性の評価・都市開発における環境技術の適用状況と課題